

令和6年度 西海市立西海北小学校 自己評価書

【6年度の重点努力目標】

一人一人が輝く学校 「自分史上最高」

- かしこい子：主体的に楽しく学ぶ子
- やさしい子：自他と故郷を愛し、命を大切にする子
- たくましい子：外遊び、体力づくりに親しむ子
- 学び続ける教職員 ○愛情を注ぐ教職員 ○思いを共有し、共に課題に取り組む教職員

評価項目	具体的な方策、手立て	アンケート評価 <small>(アンケートは4点満点)</small>	評価の根拠及び改善策	
1	学習指導 ・教師は明るく元気に指導している。 ・子どもたちは、意欲的に学習している。	○学習規律の確立 ○解決したくなる出会いの工夫、「めあて」が子どもに届く導入 ○友達と協力したり、話し合ったりして学習がより深まるように取り組む授業の実現 ○教材の価値を大切にする授業 ○全国学力学習状況調査、長崎県学力調査、西海市学力調査結果の分析と活用 ○確かな学習計画のある授業 ○校内研究・校内研修の充実 ○聞く力、話し方、読む力、書く力を高める ○特別支援教育の充実	B 自己評価 ①②③④ 評価 3.0 関係者評価 2、3、4、5 評価 3.9	○今年度、研究主任の育成と職員の指導力向上を図るため、メンター制度を活用した研究体制の整備を進めてきている。様々な年齢構成の交流と融合による研修が実践されている成果だと言える。 ○書く活動を、多教科または学校行事等でも取り入れることで、学力調査の無回答率が下がってきている。 ○同学年がいないため、一人で抱え込まず、気軽に声を上げて問題解決ができるように「聞かせて会」「助けて会」を有効に活用している。 ○ICT機器（電子黒板、クロームブック）を活用することで、考えの共有が短時間でできる・考えが視覚化できるようになり、主体的・対話的で深い学びにつながってきている。
2	生徒指導 ・子どもたちは、明るいあいさつができている。 ・ふるさとや人を愛する心を育成している。 ・豊かな人間性や社会性を育成している。 ・いじめを許さない積極的な生活指導を推進している。	○自己肯定感や自己有用感を高める取組の実施 ○「夢」「あこがれ」「志」を育む活動の推進 ○自治力を高める取組の実践 ○いじめ防止基本方針の遵守 ○友達のよさやがんばりを認める活動の実践 ○「あいさつ、返事、ありがとう」の徹底 ○子どもよさの共有	A 自己評価 ⑦⑧⑨ 評価 3.2 関係者評価 1 評価 3.4	○全学年hyperQUテストを実施し、結果を分析することで集団や個の特性をつかむことができた。構成的グループエンカウンターを取り入れ、子どもの内面を耕す指導を継続している。 ○生活目標を意識して生活できるように指導している。特に、あいさつについては、外部評価が下がってきているため、職員会議であいさつをする目的を明確にし、全職員で共通実践を図っていくことを確認している。
3	健康・安全 ・基本的な生活習慣定着を図るために家庭との連携が	○学校保健委員会における取組（具体的行動目標の設定） ○早ね・早起き・朝ごはんの推進	B	○ネット・電子メディア利用「ながさき基準」の各家庭への配付や校内掲示による啓発を行うことで意識づけを図っている。

	とられている。 ・登校ボランティア、警察との連携による安全体制が確立されている。	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭におけるメディア利用のルール作りの推奨 ○通学路の定期的な点検と環境改善への努力 ○「西海安全パトロール隊」「見守り隊」との連携 ○安全教育の徹底と危機管理マニュアルの改善 ○防災への取組の見直し・改善 	<p>自己評価 ⑥⑪⑫⑬</p> <p>評価 3.1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ココロねっこ運動についてPTA評議員会で説明を行ったり、文書を配布したりすることで、家庭教育力の低下を防ぐ取組を行った。また、代表委員会で「北小メディア宣言」を話し合い、自発的な実践へと結びつけた。 ○学校運営協議会の体制づくりのスタートとして、PTA専門部と見守り隊の活動のタイアップを進めていくことで、家庭と学校と地域連携の重要性を確認することができた。
4	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級の教育活動のさらなる充実 ○各学級の支援を要する児童に関する実態の把握と、個に適した指導方策の実践 ○物的、人的学習環境のユニバーサルデザイン化 ○保護者との教育相談の緊密化 ○関係機関への積極的な連携の推進 	<p>A</p> <p>自己評価 ④⑤</p> <p>評価 3.3</p> <p>関係者評価 6</p> <p>評価 4.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○支援を要する児童の保護者との連絡を密に取り、スクールカウンセラーとつなげることができた。専門的な見地からの対応策や指導・支援方法を学ぶことで、児童やその保護者の困り感だけではなく、担任の困り感を和らげることもつながってきている。 ○不登校の児童とその保護者とのかわり方について、ソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、学習支援センターの先生方等と連携して実践を行っている。外部連携を強化することで、児童や保護者とのつながりを保っている。
5	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA活動との連携による除草 ○花の栽培活動 ○季節に対応した学習風景と教室環境の推進 ○掲示教育・言語環境の充実 ○ICT機器の効果的な活用（クロームブック、デジタル教科書等） 	<p>A</p> <p>自己評価 ⑤⑪⑭</p> <p>評価 3.2</p> <p>関係者評価 7</p> <p>評価 3.9</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○夏のPTA作業では、当日の参加が難しい保護者は前日に作業を行ってくださったり、当日は多くの会員の参加の下、運動場周辺の草刈り作業を中心に、協力して作業したりすることができた。 ○学年掲示板の活用が計画的になされており、児童一人一人の学びの足跡として示され来校者に好評だった。 ○視聴覚担当や研究主任が率先してICTを効果的に活用し、校内研修を通して発信することで全学年の授業改善が進んできている。
<p>その他 特記事項</p> <p>○評価方法について 評価のために活用したアンケートは「自己評価（職員）」と「関係者評価（地区学校評価委員）」2種類である。それぞれのアンケート項目の中で、該当する項目の平均値をそれぞれ記述している。</p> <p>○評価全体からの分析 地区学校評価委員の評価、職員の自己評価いずれにおいても1回目が高評価だった。背景としては昨年度が取組が、たくさんの方々に御理解いただいたこと、赴任してきた職員が本校の取組の有効性を感じたからだと分析している。一方で、マンネリ化が招く閉塞感が2回目の評価につながっていると考え、課題が明確化したら即対応するという迅速化を心掛けてきた。自信</p>				

をもって職務を全うできるように促すことと、さらなる高みを目指す職員集団であり続けるため、日頃から職員の頑張りを見つけ、認め、それを全職員で共有すること、課題に対しても全職員で共通理解・共通実践ができるようなマネジメントに今後も努めていく。